



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4567 号 2018.8.25 発行

### 「LLブック」ぜひ本棚に 司書の田沼さん、県立図書館で講演



中日新聞 2018年8月24日

LLブックを紹介する田沼恵美子さん=富山市茶屋町で

東京学芸大付属特別支援学校（東京都）の司書田沼恵美子さんが二十三日、富山市茶屋町の県立図書館で「すべての子どもにとって読むことは世界に開かれた窓」と題して講演し、「障害にかかわらず、すべての子どもたちに学校図書館を」と語った。

子どもの読書活動に理解を深めてもらおうと、同館が毎年開く「子どもと本の講座」の一環で、県内の図書館職員ら約百四十人が参加した。田沼さんは

支援学校で司書を務め、知的障害児への読み聞かせを三十七年ほど続けている。

田沼さんは、文字を読んだり理解するのが苦手な人向けに書かれた本「LLブック」を紹介。内容は青年・成年向けだが、写真や絵、ピクトグラム（絵記号）などを使ってわかりやすく書かれた本は、知的障害のある高等部の生徒たちにも引っ張りだこだといい「LLブックが公共図書館に入ってほしいと心から願っている」と呼び掛けた。

司書として勤務する特別支援学校での取り組みや、読書を通して児童が成長した様子も紹介し「きめ細かい支援がしたい」と話した。（柘原由紀）

### 特例子会社 働く場を確保 障害者 農業に活路 日本農業新聞 2018年08月24日

企業が特例子会社立ち上げて障害者を雇用し、農業分野で障害者の働く場を確保する事例が増えている。国が障害者雇用を促進する中、地方で障害者人材の確保が必要となっているためだ。障害者の就労拡大と同時に農業の担い手確保を両立する取り組みの一つとして、動向が注目される。（久慈陽太郎）

#### 人材獲得競争が激化

日本航空の特例子会社「JALサンライト」は4月から、千葉県旭市で農作業を請け負っている。障害者4人を野菜農家2戸に派遣し、種まきや移植、収穫、包装など幅広い作業を担っている。今後は、農作業に従事する障害者を10人まで増やすことを検討中だ。同社が農業事業に進出した背景の一つは、障害者の雇用拡大だ。厚生労働省は4月、企業に対する障害者の法定雇用率を0・2ポイント引き上げ、2・2%に改めた。対象の事業主の範囲も、従来の従業員50人以上から45・5人以上に変更。2021年4月までに、企業の法定雇用率を2・3%に引き上げる予定だ。これに伴い、企業に雇用される障害者の数は増え続けている。同省によると、17年は49万5795人で前年比2万1421人増。企業間で、雇用する障害者の獲得競争が激化している。農林水産政策研究所によると、17年6月時点で全国の特例子会社464社のうち39社が農業分野に関わり、4年前に比べて17社増えている。同社人材開発室は「企業が多く立地する都市部では、

障害者の確保が難しくなっている」として、地方での人材確保を重視する。小林英夫室長は「地域の主産業であり、人手不足の農業は、事業内容に適している」と話す。作業内容が幅広い農業は、障害者が自分の得意な仕事を見つける機会が増えることも利点だ。小林室長は「今後は提携農家を増やして、障害者が活躍する場を増やしたい」と強調する。農家の作業計画立てやすく重宝

特例子会社が雇用する障害者が農業の担い手として活躍しているのが、システム開発を手掛ける伊藤忠テクノソリューションズの特例子会社「ひなり」だ。静岡県浜松市に開設した「浜松オフィス」では現在、障害者28人が農作業を請け負う。依頼する農家は8戸。他の農家から「作業を頼めないか」と依頼が来るが、障害者の人数が足りず、断らざるを得ない状況だ。

同オフィスを管理する中島昌博さんは、依頼が多く寄せられる理由を、「年間を通じて人材を提供できるので、農家が作業計画を立てやすいため」とみる。障害者1人が病欠の場合でも、別の障害者の予定を調整して派遣。作業への影響を最小限に抑えている。

同市でトマトなど1ヘクタールを栽培する「まるたか農園」では、ひなりが雇用する障害者が農作業全般を担っている。同農園の鈴木崇司代表は「障害者の労働管理をひなりが行ってくれるので負担が少ない」と話す。

ひなりには複数の特例子会社が視察に訪れ、ノウハウを学んでいる。中島さんは「農作業の請負は、ハウスなどの設備投資や販路確保の必要がないため企業が進出しやすい。注目する特例子会社は多い」と説明する。

J Aなど仲介役に

農林水産政策研究所の吉田行郷企画広報室長の話

農業分野の人手確保のため、特例子会社の農業進出を希望する自治体が増えている。特例子会社は障害者に賃金を支払うため、通年の作業を確保しなければならない。人材不足に悩む農家のニーズの掘り起しが欠かせない。J AやN P O法人などが仲介役となり、農家と結び付ける取り組みが必要だ。

### <ことば> 特例子会社

企業が障害者の雇用に特別な配慮をした子会社。雇用する障害者は親会社に雇われているとみなし、親会社の雇用率に算入できる。障害者が働きやすい職場環境や就業規則の整備が必要となる。

## 自然栽培なら安心 障害者の農作物を一流シェフが料理



福祉新聞 2018年08月24日 編集部  
自然栽培の食材を使うフルコースを味わった

障害者が農薬や肥料に頼らない自然栽培農法で育てた農作物を一流シェフが料理して提供するディナーショー「SDGs ALL ATHLETE DINNER」が7月27日、東京都港区のレストラン・結婚式場「八芳園」であり、約150人が参加した。一般社団法人農福連携自然栽培パーティー全国協議会（磯部竜太理事長）と八

芳園が主催し、昨年に引き続き2回目の開催。

2020年東京五輪・パラリンピックに向け、国内外に安心・安全な自然栽培の農作物をアピールしようと企画した。

ディナーショーには、サッカー元日本代表の福田健二さんやデフフットサル日本代表の東海林直広さんらアスリート関係者も出席した。

開会のあいさつで、同協議会栽培顧問の佐伯康人さんが「自然栽培の農福連携で世界に

羽ばたいていきたい」と述べ、乾杯した。

参加者は、八芳園のシェフが腕によりをかけて仕上げた自然栽培の食材をふんだんに使った和洋折衷のフルコースを堪能した。



同協議会は全国の障害者施設を中心に、自然栽培農法で農作物を生産する農福連携の活動を展開しており、100団体以上が加盟している。

八芳園は以前から、安心・安全面から有機野菜や自然栽培の食材を使用していた。両者は前回のディナーショーをきっかけに、農福連携の活動支援や自然栽培の機運醸成を目的とした包括的連携協定を今年3月に締結した。

協定によると、同協議会に参加している施設で作った自然栽培の農産物を八芳園が購入し、披露宴やレストラン、社員食堂のメニューで使う。

#### 受託給食を効率化 デリクックちくま 人手不足に対応 信濃毎日新聞 2018年8月24日 長野市内の集中調理拠点で調理後に急速冷却された出荷前の食品



病院や福祉施設向けの受託給食を手掛けるデリクックちくま（長野市）は、加熱調理した食品を急速冷却して保存し、食事時間に合わせて再加熱する提供方式を強化する。現在は提供先の施設で調理する方式が大半を占めるが、自社の集中調理拠点でまとめて調理し、提供先で再加熱することで人員配置を効率化。深刻化する人手不足に対応し、収益改善にもつなげる。

加熱調理した食品を90分以内に0～3度に急速冷却し、提供先の施設で食事時間に合わせて再加熱する方式は「クックチル」と呼ばれる。冷却した状態で最長5日間、安定した品質が保てる。長野市内にあるデリクックちくまの集中調理拠点「セントラルキッチン」は食品安全の国際規格ISO22000を取得しており、衛生面でも品質の高い食品を提供できるという。

同社の受託給食事業は現在、県内の7カ所の病院と55カ所の福祉施設に1日計1万2千食を提供している。提供先の施設での調理が主体で、昼に集中する調理時間の従業員確保が課題となっている。一方、セントラルキッチンの稼働は午前中が中心で、午後は製造の余力がある。クックチル方式の強化で、効率的な人員配置を進める。

本年度末までにクックチル方式で受託する病院や福祉施設を現在の2・7倍の30カ所に増やす計画。1日1500食を提供する千曲市の上山田病院も9月に導入する。デリクックちくまは2018年3月期に2億4千万円だったクックチル方式の売上高を、19年3月期に5億円に引き上げることを目指す。

マイナス20度で冷凍する方式の「クックフリーズ」も強化する方針。9月にも大型急速冷凍機を導入し、人手不足の病院などに半年間保存できる総菜として売り込む。

北沢英行社長は「どの業界も人材確保が難しく、従来の給食モデルでは成り立たなくなっている。大量に調理できるセントラルキッチンを持つ強みを生かし、さまざまな食事提供方法を提案していきたい」と説明。「提供先も調理室にかかる設備投資や運営コストを減らせるメリットがある」としている。

#### 幼児の性的虐待を防げ 男性保育者向けセミナー 仙台 河北新報 2018年8月24日

幼児への性的虐待事件が相次ぐ男性保育士の信頼回復を目指した「管理職と男性保育者

のための性的虐待予防セミナー」が23日、仙台市青葉区五橋の仙台レインボーハウスであった。

市内の男性保育者らでつくる「子育て伊達（こそだて）乳幼児楽会」（加茂光孝楽会長）が主催。男性保育者のほか、保育園の女性園長や女性管理職ら約40人が参加した。

幼児虐待に詳しい東京きぼう法律事務所の寺町東子弁護士が講演し「性的虐待の加害者は圧倒的に男性だが、実態はごく少数の人物が何百回と犯行を繰り返しており累犯性が高い」と解説。「男対女ではなく、数%の性的犯罪者から結束して子どもを守る、という視点が重要だ」と訴えた。

#### 幼児への性的虐待をいかに防ぐか、具体的な対処法が語られたセミナー

虐待をさせない園づくりの具体策として（1）施設各所へのビデオの設置（2）男女の垣根を越えて情報共有できる職場環境（3）子どもたちへの性教育—を挙げた。

幼稚・保育園について「小児性犯罪者が標的にしやすい職場」と指摘。同僚の犯罪が疑われた場合の対処法として「園長と事実確認の上、警察に通報する。刑事処分後は治療を受けさせ、職場から排除することが重要」と強調した。

午後は管理職と一般保育者に分かれ、より実践的な研修を行った。

参加した太白区の女性保育園長（63）は「同業者からは『なぜリスクを負ってまで男性を雇うのか』とも言われるが、職場に男性は必要。園として何ができるか、具体的で非常に参考になった」と述べた。

同会の四釜喜愛（よしなる）楽頭は「女性管理職をはじめ多くの参加者が集まり、反響の大きさに驚いている。今回の経験を信頼回復に生かしたい」と話した。



#### 障害者の職場体験推進 府、事業者とマッチング会 大阪日日新聞 2018年8月24日 企業の担当者（奥）と面談する求職者ら＝23日、大阪市中央区の府立労働センター



働く意欲のある障害者と、職場体験を受け入れる企業とをつなぐ大阪府主催のマッチング会が23日、大阪市中央区の府立労働センター（エル・おおさか）で開かれた。府内に事業所や本社を置く製造業、飲食業など28社が出展し、求職者と人事担当者が仕事内容について意見を交わした。

求職者にとっては、職場体験を通して就職に向けた準備を進められ、事業者は障害の特性を理解することや、受け入れに必要な職場環境を整えるきっかけになる。求職者が増えているとされる精神障害や発達障害のある人を、主な対象者として実施した。

障害者を積極的に雇用する特例子会社や、雇用経験のない会社などが参加。多くの求職者が訪れ、熱気に包まれた。同市鶴見区の男性（33）は「人とのコミュニケーションが苦手。事務補助の仕事を探している」と話した。

出展したある製造業者は、知的障害者と精神障害者で20代の計3人を雇用しているといい、社長は「休まずに来てくれるので助かる。戦力です」と語った。府によると、障害者の雇用に関心を持つ企業を増やし、受け皿を広げることが課題だという。

#### 障害者雇用水増し問題 厚労省示す確認方法「拡大解釈」 朝日新聞 2018年8月24日 全国で半数を超える都道府県が、制度の対象外の障害者を法定雇用率に不適切に算入し

ていた現状が朝日新聞の調査で浮かび上がった。多くの自治体の担当者は、厚生労働省が示す障害者の確認方法を「拡大解釈していた」と釈明するが、結果として数字を実態より大きく見せていた。厚労省もそうした状況を長年放置していたことになる。

### 障害者の法定雇用率に算入できる対象者は…



自治体や省庁は、障害者の雇用者数を国に毎年報告する義務がある。厚労省は2005年に作ったガイドラインで、対象となる障害者の具体的な確認方法を、障害者手帳などの証明書類で確認すると定めている。しかし、多くの自治体はこの規定に反して、手帳や診断書などを確認せずに雇用率に算入していた。

原因の一つは、厚労省が雇用状況を確認する際に毎年出す通知だ。障害者の確認方法について、昨年まで「身体障害者とは、原則として身体障害者手帳の等級に該当する者」と説明。ガイドラインの文言と一部が異なっていた。そのため多くの自治体が「『原則として』とあったので、必ず手帳が必要と思っていなかった」(高知県の担当者)などと「拡大解釈」していた。

### 障害者雇用問題、愛媛・宇和島市病院局も不適切算定 産経新聞 2018年8月24日

愛媛県宇和島市病院局が障害者の雇用率を算定する際、結果として雇用率の引き上げにつながる形で嘱託職員数を不適切に操作していたことが24日分かった。

病院局によると、職員数から嘱託職員数を除外する一方、障害者数には嘱託職員を含めていた。遅くとも周辺3町との合併で新市として発足した平成17年以降、同様の処理を続けてきた。

記録が残る範囲で確認したところ、法定雇用率を上回ったとしていた25、27、29、30年度も適切な算定では下回った。

### 別府市「太陽の家」資料館新築へ 20年開館、体験型展示に一新 クラウドファンディングも活用 西日本新聞 2018年08月24日

広瀬勝貞知事(左)に新資料館の計画を説明する太陽の家の山下達夫理事長(左から2人目)



2020年3月開館  
 予定の新資料館のイメージ図



する歴史資料館の新築を計画している。展示スペースを3倍にし、仮想現実(VR)映像を用いて車いすマラソンなどが疑似体験できる施設にする。東京パラリンピックが開催される2020年3月に開館を予定している。

障害者の自立や就労を支援する社会福祉法人「太陽の家」(別府市)が、創設者中村裕医師(1927-1984)の遺品などを展示

中村医師は別府市生まれ。64年の東京パラリンピック開催に尽力。日本選手団長を務め、日本パラリンピックの父と呼ばれた。翌65年に太陽の家を創設。障害者について「保護より働く機会を」と提唱した。

太陽の家は、20年の東京パラリンピックを機に、改めて中村医師の功績にスポットを当てるとともに、障害者の仕事やスポーツ関連の展示を充実させようと資料館の新築を企画した。

計画では、職員用駐車場として使っている敷地に、鉄骨造りの平屋（約650平方メートル）を新築。展示スペースを現在の3倍の約450平方メートルとし、中村医師や64年大会の記念品などを並べる。障害者が仕事や生活で使用する道具を実際に使ったり、VRで車いすマラソンやラグビーを体験したりできる展示も設ける。集会や地域の避難所などに活用できる研修室（約200平方メートル）も造る。

新資料館の名称は太陽の家の理念を織り込み「太陽ミュージアム～No Charity' but a Chance!（保護より機会を）」とする。建設費は3億円。うち2億円は寄付で賄う予定で、インターネットで資金を募るクラウドファンディング（目標額500万円）を活用。11月18日まで受け付ける。

現歴史資料館は2000年開設で年間約9千人が来館。会議室として使っていた建物を転用したが、築49年と老朽化していた。

20日、広瀬勝貞知事に資料館の新築計画を報告した山下達夫理事長は「学び、体験し、感動する資料館として、障害者、住民、見学者がより交流できる場にしたい」と意気込みを語った。

#### 障害者施設 浸水で一時孤立 和歌山・新宮（和歌山県） 読売テレビ 2018年8月24日



台風20号の影響で和歌山県新宮市では24日、市内を流れる熊野川と赤木川が氾濫し、床上浸水などの被害が出た。氾濫した川の合流地点では、水位は徐々に下がったものの、茶色く濁った濁流が勢いよく流れ、朝までは、近くの畑も水につかり一面池のようになっていた。氾濫した赤木川の近くにある障害者の生活支援施設では、床上4センチまで浸水。施設のスタッフによると、水は一気に増え始め5分ほどで、施設の中にも流れ込んできたという。このため、避難はできず、一時、入所者ら81人が孤立状態となった。周辺の道路も冠水するなど、赤木川上流では、午前10時までの24時間で総雨量約400ミリを記録した。これは、平年の8月の1か月分の雨量に匹敵する。

#### 医療ケア児支援で看護師増 文科省、1800人要求 共同通信 2018年8月24日

文部科学省は24日、学校に通う重い障害のある子どもの増加を踏まえ、学校生活に必要な医療的ケアを担う看護師を300人増やして1800人配置することを決めた。他の特別支援教育の関連政策とも合わせ、2019年度予算の概算要求に28億円を盛り込む。

文科省によると、公立の特別支援学校に在籍する医療的ケアが必要な子どもは06年度に5901人だったが、17年度は約1.4倍に増加した。

同省は専門職である看護師の配置を充実させることで、付き添う保護者の介助負担の軽減にもつなげたい考えだ。

具体的には、自治体や学校法人が看護師を学校に配置する際、費用の3分の1を補助。看護師が配置先から幼稚園や高校などを巡回することも認める。

要求には、発達障害などの子どもの支援が進学や就労のタイミングで途切れないよう、関係機関で情報を適切に引き継ぐ仕組み構築に向けた費用補助も含めた。

障害で通常の教科書の利用が困難な子ども向けに、教科書の文字をパソコン上で拡大したり、音声で聞いたりできる教材の作成や普及も推進する。

## 写真展 我が子、障害も愛してる 家族の幸せの瞬間、形に 横浜 / 神奈川

毎日新聞 2018年8月24日

障害のある子どもとその家族の幸せの瞬間を写し続けるフォトグラファー、後藤京子さん（44）の写真展が23日、横浜市港北区の横浜ラポールで始まった。会場には後藤さんが子どもたちの元に出向き、自然とあふれ出る笑顔をカメラに収めた57家族の写真が展示されている。30日まで。【木下翔太郎】

後藤さんは、息子（4）に生まれつき知的障害があり、3歳の時に精神運動発達停滞と診断された。子育てに追われ「最近笑っていないなあ」と感じていた時期があったが、同じように子育てする母親たちと交流して多くの笑顔と出会う中で、心がふと温かくなり元気をもらった。「日常の中で幸せな瞬間はたくさんある。その幸せを感じながら生きている」。そう気づき、家族が幸せを感じている瞬間を形に残したいと思うようになった。

## 演劇学ぶ国内初の国公立大 平田オリザさん学長に

神戸新聞 2018年8月23日

平田オリザさん



兵庫県は23日、豊岡市で開校を目指している専門職大学の基本構想案を発表した。演劇を専門的に学べる国内初の国公立大学になるといい、学長には劇作家で演出家の平田オリザさん（55）が就任する予定。演劇で身に付ける表現力を基に、観光や文化の分野で即戦力となる人材を育成する。2021年度の開校に向け、19年10月にも文部科学省に認可申請をする。

専門職大学は昨年5月の学校教育法の改正で創設された新たな高等教育機関で、ITなどの成長分野で即戦力となる人材育成を目指す。但馬地域では地元の誘致活動もあり、県が昨年度に設立検討会を設置。18年度からは準備委員会に格上げし、構想案を議論してきた。

大学の名称は「国際観光芸術専門職大学（仮称）」。文化・観光創造学部文化・観光創造学科（仮称）の1学部1学科のみで、定員は1学年80人の4年制とし、1年生は原則全寮制とする。集団生活で演劇の手法などを学び、2年目から「観光地経営コース」と「文化創造コース」を選択する。進路は観光分野がツーリズムプランナーやホテルマネージャーなど、文化分野は俳優や舞台演出家などを想定しているという。

実習授業に重きを置いているのも特徴で、JR豊岡駅南側に建設する約1ヘクタールのキャンパス内には劇場やスタジオを整備。学生らが過疎化に悩む地域の課題を解決する「地域リサーチ&イノベーションセンター（仮称）」も学内に設け、演劇で培ったコミュニケーション力を生かし、地域住民と一緒にインバウンドの誘致などに取り組む。

総事業費は約80億円を見込んでおり、井戸敏三知事は「但馬は城崎国際アートセンターなどがあり、国際芸術拠点としても注目されている。人間環境や自然との共生など、ここでしか学べないことがあるはず。世界的な知名度を誇る平田さんを募ってくる学生も多いと期待している」と話した。（前川茂之）

## 【主張】親子でスマホ オフにして家族の会話を

産経新聞 2018年8月24日

家族と一緒にいても各自がスマートフォンや携帯電話を操作している。そう答える日本の小中学生が多いことが国際比較調査で分かった。

親も子もスマホの画面にくぎ付けでは、会話が弾みようもない。ときには携帯端末を切

って家族だんらんの時間を大切にしてほしい。

国立青少年教育振興機構が、日本と米国、中国、韓国の小中学生を対象に、ネット社会の親子関係に関する意識調査を行った。

冒頭の問いで「よくある」と答えた日本の小中学生はほぼ4人に1人で、4カ国中、最も割合が高かった。続く米国の約2倍だ。「たまにある」を合わせると日本は約6割にのぼる。

親の世代がスマホを手放せず、食事や会話での明らかなマナー違反を叱れない。大人がまず自らの行動を省みる必要がある。

親がスマホを使いながら話すことが「よくある」という子は、親や家族と一緒にいるのが「好き」「とても楽しい」という割合も低かった。

ネット社会の危険などについて親から「ほとんど注意されない」と答えた子供が日本は約3割と、一番高かったことも心配だ。

スマホは便利な一方で、ネットを通し、性や暴力などの有害情報に容易に触れる。犯罪に巻き込まれる例も後を絶たない。

深夜までの長時間使用なども問題となっている。読書や睡眠時間まで削られるのでは、情報機器の活用とはほど遠い。

スマホを持たせるなら、使用ルールを決めることなどは、親として当然である。

ネット社会で親子の連絡手段も様変わりしているようだ。

短文投稿などができる交流サイトのSNSを利用して親とコミュニケーションを「よくしている」という割合は、日本の中学生で4人に1人と多かった。

一方で親とはSNSや電話を介するより「直接話す方が好き」という回答は8割にのぼる。思春期などの親離れもあろうが、本当は子供は親と直接話したいのだ。

ところが話そうとすると、親は「時間がない」「いま忙しい」と言う。それが「よくある」「たまにある」を合わせると日本は約4割で最高だった。

夏休み、子供とゆっくり話しただろうか。スマホに気を取られては子供の異変にも気付けない。

## 半分、青い

北海道新聞 2018年8月24日

NHK連続テレビ小説「半分、青い。」が好評だそうだ。「天然」だが、元気いっぱいヒロインが懸命に生きる姿が共感を呼んでいるのか。心に残るせりふも少なくない▼「井の中の蛙（かわず）大海を知らず、されど空の青さを知る」。主人公鈴愛（すずめ）の幼なじみ律（りつ）が、初恋の相手、清（さや）に教えられる。たとえ井の中の蛙でも、懸命に努力すればその道を究められる一との意味だろう。勇気が湧く▼鈴愛の親友で、ゲイの漫画家ボクテのせりふも印象的だった。ゲイも漫画家もやめて、実家に戻れと迫る母親の手紙につぶやく。「お母さん。漫画家はやめられても、ゲイはやめられないんだよ。ゲイは職業じゃないからね」▼性的指向であり「嗜好（しこう）」ではない。性的少数者の思いを、静かに、けれど強烈に訴えた。同性愛を「趣味みたいなもの」と発言した自民党の国会議員に聞かせたい▼考えさせられたのは片耳が不自由な鈴愛の言葉だ。「この世は両耳聞こえる人用にできとる。私のためにはできとらん」。障害者や高齢者、妊婦、子ども。世の中は、そういう「社会的弱者」を基準につくられていないことが多い。「不便」なのは、「不便でない」人が社会を構築しているからだ。そんな怒りを突き付けられたような気がした▼物語では、鈴愛が経営する五平餅カフェも軌道に乗ったようだ。残すところ1カ月余。どんな感動的なせりふが出てくるだろうか。

